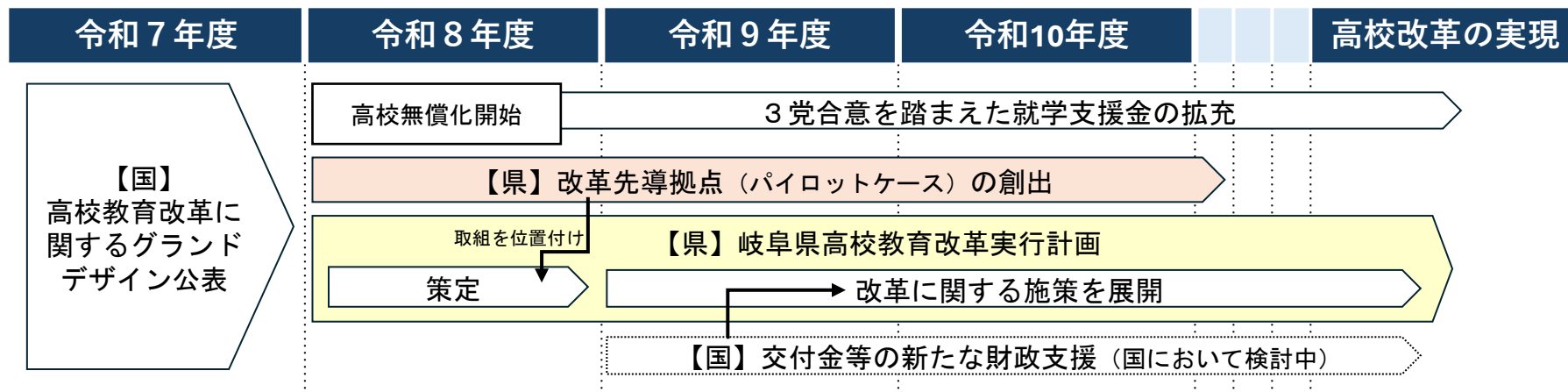


岐阜県における高校教育改革の取組について

1 高校教育改革に関する動向・スケジュール



2 改革先導拠点校の取組

資料 1－3

○国が示す類型ごとに拠点校を設定。本県の高校教育改革を牽引するパイロットケースを創出

- ・事業期間 令和8年度～令和10年度（3年間）
- ・事業費 62.3億円（国10/10）※6/30採択

○改革先導拠点校で創出された成果を県内に広く普及・波及させることで、県全体の高校教育改革を推進

類型	改革先導拠点校	取組の方向性	事業費
1 専門高校の機能強化・高度化	岐阜工業高校 (工業科・全日制)	生産現場に対応した高い技能とAI/デジタル技術を融合しながら岐阜県のものづくりを牽引する人材を育成 資料1－4	32.8億円
2 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化	大垣北高校 (普通科・全日制)	次世代産業や社会課題に向き合う理数系イノベーターを育成 資料1－5	18.4億円
3 地理的アクセス・多様な学びの確保	華陽フロンティア高校 (普通科・定時/通信制)	社会で求められるスキルと自己肯定感をもって、自らの未来を切り開く人材を育成 資料1－6	11.1億円

岐阜県における高校教育改革の取組について

3 岐阜県高校教育改革実行計画の策定

- 文部科学省が示す「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」及び「策定の手引き」を踏まえ、各都道府県が本年度中に策定
- 2040年を見据え、本県全体の高校教育の将来像を描く
- 国は令和8年度中に実行計画を策定している都道府県に対し、計画に位置付けられる取組を対象に交付金措置を検討。また、高等学校教育改革等推進事業債も計画に位置付けた事業が対象
- 「岐阜県高校教育改革推進会議」を立ち上げ（9/24）、策定に向けて検討を進める（年3回開催予定）

文部科学省が示す「高校教育改革実行計画」のイメージ

（R8.5.15「策定の手引き」より作成）

第1章	本計画について	○計画の位置づけ、計画期間 等
第2章	高校教育の現状と課題	○本県における高校教育の現状と課題 等
第3章	基本的な考え方と方向性	○2040年に向けた基本的な考え方と方向性
第4章	高校改革の実現に向けて 中核となる3つの施策等	○専門高校の機能強化・高度化 ○普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 ○地理的アクセス・多様な学びの確保 （関連する取組） ○「改革先導拠点」の取組 ○学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援
第5章	その他の具体的施策	○学校運営の改善 ○教育環境の整備・教師を取り巻く環境整備 ・学校の配置・規模の適正化 ・学校施設の整備方針 ・教師を取り巻く環境整備（学校における働き方改革 等） ・教員研修・人事配置 ○高校入学者選抜の改善 ○生徒・保護者・県民への周知
第6章	計画の推進	○推進体制、数値目標、ロードマップ 等

【改革先導拠点】岐阜ならではのN-E.X.T.ハイスクール

資料 1 - 3

～ 岐阜や日本の未来を自ら創り上げ、社会に出て活躍する人材を輩出する「学びの改革」 ～

背景/ 課題

① 主力の2次産業で付加価値の高い専門人材の育成が不十分



技術者の供給不足もしくは雇用主が求める人材とのミスマッチ

工業科比率12.4%と全国平均を上回るも
工業高校の有効求人倍率24倍と需給ギャップ

② 理数系の面白さに触れ、進路を選ぶ動機づけが不十分



先端技術や理工学産業の面白さに触れる機会形成のボトルネック

県立普通科における理系選択者比率が
約40%と低水準で推移

③ 不登校等多様な学習ニーズの増加と社会的自立への接続不足



少しのサポートで社会接続が可能となる生徒への対応が後手に回る

通信制高校進学者数は約1.7倍(H27→R7)
一方で県立通信制の受入れは7.8%にとどまる

改革コンセプト① 学校カリキュラムへ踏み込む大改革



教育課程
の再編



探究/実装
の強化



AI/DXの
推進



生涯学び
続ける力

×

改革コンセプト② 自前主義から脱却した外部連携強化



産業界
との共創



大学/研究
機関連携



地域社会
接点創出



外部人材
の登用

類型1. 岐阜工業高校



産業を牽引する
実践人材育成モデル

アドバンスト・エッセンシャルワーカー

技能の再定義とカリキュラムの改革

産業界エキスパートによる技術指導

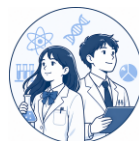
主要KPI

- ・ 県内企業（工業系）への就職内定者数
- ・ 新カリキュラム後の就職定着率

投資規模

32.8億円

類型2. 大垣北高校



次世代産業を創る
理数系人材育成モデル

トップ理数系イノベーター

第一線で活躍する最先端理数系
イノベーターとの共創講座の開講

理数系分野で“実装”までを重視した
カリキュラムの改革

地域に開かれた理数系
人材育成プログラムの展開

主要KPI

- ・ AIアプリの実装者率
- ・ 文系選択者の数理情報科目講座の受講率
- ・ 興味関心に基づく進路選択率

投資規模

18.4億円

類型3. 華陽フロンティア高校



多様な生徒の
社会的自立モデル

地域社会で活躍する自立型人材

教員・パートナーが共に支える
シェアリングシステムの構築

多様な生徒の状態に合わせた
個別最適なカリキュラムの改革

主要KPI

- ・ 通信制高校選択者の本校選択率
- ・ 自己肯定感・課題解決効力感
- ・ 卒業生の進路決定率

投資規模

11.1億円

1. 本県の課題・背景

量の課題 構造的な産業人材不足



製造業が
県内総生産の

34.5%

製造業が強く、専門学科比率は高い状態ながら
産業界は慢性的な人材の「量」の不足に直面

質の課題 学びの更新の必要性



全国平均上回る
工業科比率

12.4%



工業高校の
有効求人倍率

24倍



従来技能に偏重
機械加工/溶接
電気配線等



DX/AI人材需要増
製造業の現場も
DXが要求される



若者の関心低下
ものづくりへの
興味が低下

企業からは教育にもDX/AI活用等を求められる
急速な技術革新に設備/内容も追いつかない

2. 育成する人材像



**アドバンスト・
エッセンシャル
ワーカー**

現場の一次情報を掴み
高い技能と最先端の
AI/デジタル技術を
融合しながら成長
産業を牽引する人材

3. 戦略的拡張

Phase 1

改革先導校 **50人/年**

Phase 2

協力校展開 **100人/年**

Phase 3

県全域実装 **1,000人/年**

【目指すゴール】

生産現場に対応した高い技能とA I /デジタル技術を融合しながら
岐阜県のものづくりを牽引する人材を育成

【教育改革の柱 ①】

技能の再定義とカリキュラムの改革

ハード&ソフトウェア両軸での
改革で学習OS（学びの基盤）を刷新



具体
施策

【ハードウェア領域】

- 機械系/電気系/建設系の3領域で学びの内容を再編
- 工業実習を「先端工学実習」に刷新
- 多能型人材育成へ学科横断型の選択授業科目新設
- アドバンスト・モノづくりセンター新設
- 企業で求められる機器/設備類の新規導入/更新

【ソフトウェア領域】

- 「DX思考」の必修化

投資
規模

30.1億円

主要
KPI

県内企業（工業系）への就職内定者数／新カリキュラム導入後の就職定着率

【教育改革の柱 ②】

産業界のエキスパートによる技術指導

工業高校の求人倍率24倍に対応する
産学協働での教育プログラムの変革



具体
施策

【ハードウェア領域】

- 企業の第一線で活躍するエンジニアを特別非常勤講師として継続的に登用
- 企業の実課題をテーマとした研究開発領域のPBL（課題解決型学習）実施

【ソフトウェア領域】

- 企業との共創講座の実施

投資
規模

2.7億円

1. 本県の課題・背景

動機
課題

理系選択を阻む
“将来展望”の欠如



将来展望の欠如 文系の広き門 理数系人材不足
理数系で社会を変えていく視座の欠如 大学受験が容易な文系を選択しがち 次世代産業の担い手が不足

将来の展望が描けない事で大学進学が目的化。結果、文系偏重と理数系人材不足を招いている

環境
課題

理系進路を阻む
“周囲”の影響と時期

63.7%
(NIVE調査)

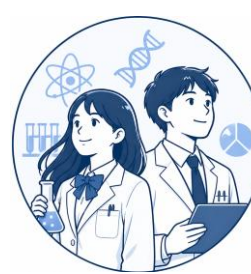
3割程度
(スタディアス調査)



親の影響 中学生の時期 場の不足
文理選択の背景に親の存在 文理選択の方向性の決定 理数系分野に触れられる場の不足

高校段階だけの働きかけには限界があり、早期かつ広域のアプローチが求められる

2. 育成する人材像



トップ理数系イノベーター

文理の枠を超え、幅広い教養と高度な理数系の素養を備え、次世代産業や社会課題に挑戦し続ける人材

3. 戦略的拡張

Phase 1
改革先導校 モデル化

Phase 2
協力校展開 協力校横展開

Phase 3
県全域実装 中核校へ普及/拡張

【目指すゴール】

次世代産業や社会課題に向き合うトップ理数系イノベーターを育成

【教育改革の柱 ①】 第一線で活躍する最先端理数系イノベーターとの共創講座開講		【教育改革の柱 ②】 理数系分野で“実装”までを重視したカリキュラム改革		【教育改革の柱 ③】 地域に開かれた理数系人材育成プログラムの展開	
多分野で卓越した人から新しい視点を学び理数系学習の強い動機づけを醸成する		設定した課題に対して実際の解決に至るまでの「実装」を学ぶ		最先端で多様な理数系プログラムが学べる地域拠点を創る	
具体施策	- 理数系先端大学との共創講座開講 - テクノロジーを活用したグローバル企業との共創講座開講 - 理数系分野での社会課題解決に挑むスタートアップ連携講座開講 - 最先端の理数系人材との共創を深めるサイエンスラボの改修	具体施策	- 生徒全員がAIエージェント/7Pりを企画し「実装」するカリキュラム開発 - 総合的な探究の時間を2単位から3単位に拡充、加えて学校設定科目を開設するなどして授業時数を70時間から最大175時間へ段階的に拡張 - DXルーム改修と必要機材の調達	具体施策	- 先導校に加え、県内他校の生徒や地域にも開かれた情報発信と探究拠点としての探究コモンズの改修 - 小-中-高-大-社の世代間交流を生むイベントやプログラムの開催
投資規模	6.4億円	投資規模	7.8億円	投資規模	4.2億円
主要KPI	AIアプリの実装者率／文系選択者の数理情報科目講座の受講率／興味関心に基づく進路選択率				

1. 本県の課題・背景

現状・背景

広域通信ではない県立通信制高校の位置付け

不登校等多様な背景の生徒増加
中学不登校生徒数3,571人

広域通信制への生徒の流入
通信制の進学需要の高まり

県立通信制高校の受入れ少
県立通信制高校で7.8%

課題の本質

学びに向かう前の自己肯定感と信頼の土台作り

強みである支援の“質”
進路決定率80%

“周囲の目”と“自己否定感”
不登校経験者82%の内情

学びのステップを始められない
学びに向き合うための支援

2. 育成する人材像



地域社会で活躍する自立型人材

多様な背景を超えて学び
自らの未来を切り拓く人材

3. 戦略的拡張

Phase 1

改革先導校モデル化

Phase 2

協力校展開
仕組みの横展開

Phase 3

県全域実装
社会での活躍促進

【目指すゴール】

社会で求められるスキルと自己肯定感をもって、自らの未来を切り開く人材を育成

【教育改革の柱①】

教員・パートナーが共に支える
シェアリングシステムの構築

教員の強みを最大限発揮できるよう
パートナーとの連携で自立支援を更に強化



【教育改革の柱②】

多様な生徒の状態に合わせた
個別最適な学習カリキュラムの改革

多様な背景をもつ生徒の自立に向けた学習プロセス
の改革（場への安心→スキル獲得→発揮→社会接続）



具体施策

- 必要な時に確実に支援を得られる、専門家による個人のメンタルケアや進路相談プログラムの実施
- パートナー登録/連携システムの構築（心理カウンセラーやキャリアカウンセラー等）

具体施策

- 生徒の状況やニーズに合わせた多様な選択講座の開催（コミュニケーションリテラシー、ビジネスリテラシー、経済リテラシー、デジタルリテラシー等）
- 自己肯定感や課題解決効力感を醸成する課題解決型PBL講座の開設（地域課題×デジタル）
- 学びを支えるユニバーサルデザイン環境の整備

投資規模

2.9億円

投資規模

8.2億円

主要KPI

通信制高校選択者の本校選択率／自己肯定感・課題解決効力感／卒業生の進路決定率